本市の実情に合わせた行政のデジタル化推進を

創政会　比留川政彦

●綾瀬市におけるデジタル化の推進について

Q　社会全体のデジタル化に向け、行政も早急に取り組まなければならない状況である。住んでみたい、住み続けたいと思ってもらえる市になることを望むが、具体的な取り組みと、今後の展望は。

A　令和３年３月に市スマート自治体推進指針を作成し、機器や導入時期などを検討した。今後、限られた人材で市民サービスを向上させていく状況に備え、情報のデジタル化を着実に推進していく。

Q　情報通信技術（ＩＣＴ）を活用することで事務処理を自動化し、限られた職員や財源で必要な行政サービスの提供ができる、スマート自治体を目指す上で、デジタル化が、市民にもたらすメリットをどう考えているか。

A　インターネットにアクセスできる端末から、いつでも、どこでも利用できるようになり、来庁する時間や交通費なども軽減されることで、利便性が向上すると考える。

Q　働き方改革の視点から、デジタル化により市職員にもたらすメリットは。

A　データ入力など、高速性や正確性が必要な作業は、デジタルツールを活用することで、事務処理の効率化が図られ、そこで得られた時間は、市民相談など職員が行うべき業務に充てることができる。

帯状疱疹の周知啓発やワクチン接種の費用助成を

公明党　三谷　小鶴

●帯状疱疹の予防について

Q　80歳までに3人に1人がかかる病気だが、ワクチンで予防できることはあまり知られていない。市民に周知啓発し、接種費用を助成しては。

A　ワクチンの有効性や副反応を正確に伝えることが重要である。現時点で助成は考えていないが、予防や早期治療の必要性の周知に努める。

●新型コロナウイルス感染症の第6波に備えて

Q　3回目のワクチン接種への対応は。また、自宅療養者を支援する、地域医療の神奈川モデルへの取り組みは。

A　2回目接種から8か月経過後の1～2週間前にクーポン券を届ける。また、訪問看護ステーションと連携し、生活支援に取り組んでいく。

Q　スマートフォンを持っていない方のために、接種済みの証明書を作成しないか。

A　接種済証は、クーポン券の右側に記載されており、再発行もできる。被接種者で工夫し、保管をお願いしたい。

●奨学金返還支援制度について

Q　若者の移住や定住を促進するため、一定条件を設け、本市独自の支援制度を創設しては。また、企業版の支援制度を市内企業に周知しては。

A　活用される制度とするためにも検証が必要で、近隣市などを調査研究する。また、再構築する工業データベースなどに掲載し、周知する。

市公認キャラクター
「ブタッコリ～」

綾西の食品スーパー閉店による後継店の早期誘致を

創政会　金江　大志

●バザール商店会の再整備や活性化策について

Q　綾西バザール商店会にある食品スーパーが、令和4年1月27日に閉店することとなった。後継店の誘致はスピード感を持って取り組むべきだが、地権者との密な連携や支援をどう考えているか。

A　後継店の早期誘致に向け、地権者が状況の報告を密に行う形で進めている。大きな課題が生じていると判断した場合は、支援策を検討し、スピード感を持って対応する。

Q　これまで商店会の活性化に向け、市が実施してきたさまざまな支援の成果は。

A　空き店舗活用事業では、元年度に飲食店が開店し、共同施設設置事業では、駐車場整備や街路灯設置などにより利便性が向上した。

Q　今こそ地域の将来を考え、商店会全体の再整備を行い、活性化策を講じないか。

A　綾西地域の将来を見据え、地域要望に沿い商店会との意見交換会を進めていく。

Q　商店会の再整備や再開発には専門的知識や視点が必要になると考える。専門家やコンサルタント会社に依頼する場合は、多額の費用が想定されるが、支援の考えは。

A　市の商工団体事業への補助金で依頼費用に活用できるものがある。商店会との意見交換で必要性が生じれば、活用を検討していきたい。

関係人口創出事業への取り組みと観光資源の活用は

石井　麻理

●関係人口創出事業としてのふるさと納税の活用方法について

Q　ふるさと納税は、関係人口としてその地域に貢献でき、地方創生や移住促進など先進的な取り組みに活用される。本市の魅力を宣伝するコンテンツが不足していると考えるが、他の自治体で増えてきている、現地で楽しめる体験型返礼品を増やしては。

A　体験型返礼品は、本市に足を運んでもらい、魅力に直接触れる機会を提供できるため、ファンの獲得に効果的と認識している。現在、3種類提供しているが、事業規模や人員体制など、事業者側の事情から実現には至らない事例が多い。体験を通じてつながりが生まれ、リピート効果も期待できるため、関係人口創出の手法として、引き続き新たな開拓を検討したい。

●市内観光資源の活用について

Q　交流人口などを増やし地域を豊かにするため、観光事業に取り組んでいるが、本市には目立った名所がない。観光資源として、あやせ目久尻川歴史文化ゾーンをどう活用すべきと考えているのか。

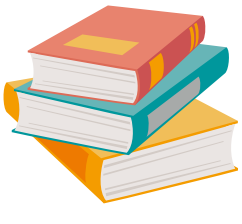
A　地域住民が歴史文化資源の価値や魅力を再認識することで醸成される郷土への強い思いが核となる。文化財を保存、継承し、訪問者と住民が集い、学び、楽しめる空間として活用すべきと考える。

１月16日、「市駅伝競走大会」が開催されました
<IIMURO GLASS綾瀬市民スポーツセンターにて>

議会用語のミニ知識

「表　決」

表決とは、議会の意思決定に議員が参加するための手段で、賛成、反対の意思表示をすることをいいます。

このように、議長が表決をとることを「採決」といい、表決の結果得られた議会の意思決定（例えば可決、否決、同意など）を「議決」といいます。したがって、表決は、議会の審議過程における最終手続になります。

表決の方法には、大別すると議長が議題に関して賛成する者を起立させ、その多少を認定して行う「起立表決」と起立者の多少を認定しがたい場合に行う「投票による表決」、議長が異議の有無を諮る「簡易表決」の3つがあります。本市議会においては、通常「起立表決」と「簡易表決」が多く用いられています。